第2号様式

ハラアカコブカミキリの耕種的防除

林業研究部　きのこグループ

１．研究の背景

ハラアカコブカミキリは、昭和52年頃に県内に侵入したシイタケほだ木の害虫で、現在でも大きな経済的な被害をもたらしている。本害虫の防除資材として、化学農薬や生物農薬が登録されているが、生産団体等からは農薬を使用しない防除方法の開発が求められている。きのこグループでは、伏せ込み場所の違いが産卵や羽化脱出に及ぼす影響を調査し、耕種的防除方法の検討を行った。

２．研究成果の内容・普及のポイント

①成虫はクヌギの生木より枯木に滞在する時間が長く、スギよりクヌギに誘引される。
②シイタケの種菌を接種していないクヌギに、産卵痕数や羽化脱出孔数が多い。
③ほだ木（直径4-6cm）の伏せ込みをクヌギ伐採跡からスギ林に変更すると、脱出孔数は87%、被害本数は69%減少した。

クヌギ伐採跡での伏せ込み（従来）

スギ林内での伏せ込み（改良）

ハラアカコブカミキリの成虫

成虫脱出孔

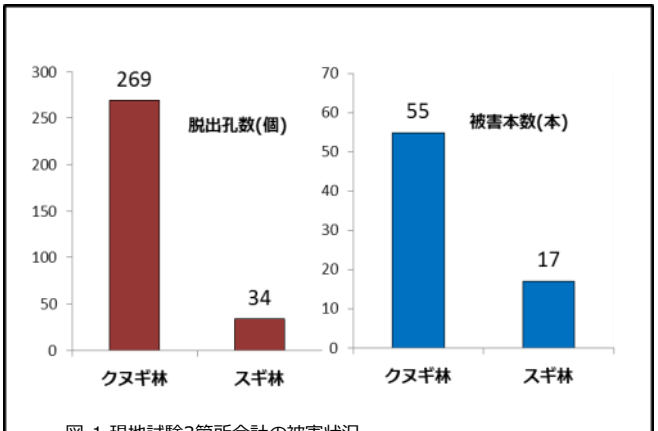

図-1 現地試験3箇所合計の被害状況

３．期待される効果

・乾シイタケ生産者の減収要因を軽減できる。
・栽培環境の改善による単収の増加や品質の向上が図られる。

４．担当機関連絡先

林業研究部　きのこグループ
TEL：０９７４－２２－４２３６
住所：豊後大野市三重町赤嶺２３６９